東日本大震災

私が見た被災地の現状＜仙台市若林区＞

4月2日～9日

周防大島町では４月２日から９日まで、山口県を通じて保健師１名を被災地へ派遣しました。
保健師が現地で見た被災地の状況、現地での活動状況などを報告します。

宮城県　仙台市

●宮城県　仙台市　若林区

３月 11 日 14 時 46 分ごろ、巨大地震が発生し、太平洋沿岸を中心に高い津波が押し寄せ、甚大な被害がでました。
仙台市若林区も海岸線から約３㎞の地点まで津波が達し、津波被害が特にひどい地区です。

4月2日出発

災害対策基本法に基づき、厚生労働省からの派遣要請を受け、山口県の災害派遣チーム第４班（周防大島町保健師１名、周南市保健師１名、県保健師２名、県事務員２名）の一員として４月２日に宇部空港を出発、羽田経由で山形空港に到着し、レンタカーで宮城県仙台市に入りました。大きく陥没した道路、傾いた家々、閉じたままの店舗の傍らに残雪も見られ、朝夕の気温が０度近くまで冷え込む、被災地東北の厳しい現状を実感しました。

現地での活動

現地では、山口県以外にも兵庫県や島根県など４県２市の保健師と医師や看護師等の専門家で構成する医療チーム、こころのケアチームが派遣されており、各機関と連携を図りながら、避難所での健康チェックや家庭訪問を行いました。

〈避難所活動〉

担当した３つの避難所（集会所・避難者９人、コミュニティセンター・避難者20人、中学校・避難者２２０人）では、インフルエンザや嘔吐下痢が流行していたため、体調の確認や衛生管理を行い感染症の予防に努めました。また、家族や家を失ったショックや余震の恐怖、慣れない避難所生活からくるストレスを軽減するための心のケアにも取り組みました。被災した方々の悲しみや恐怖、不安は計

３日　スタッフミーティング
どのように被災者のケアを行うか、連日会議を行いました。

７日　余震　震度６弱　仙台市内
仙台市では電気、ガス、水道も徐々に復旧していましたが、７日に発生した余震で再び一時停電になりました。